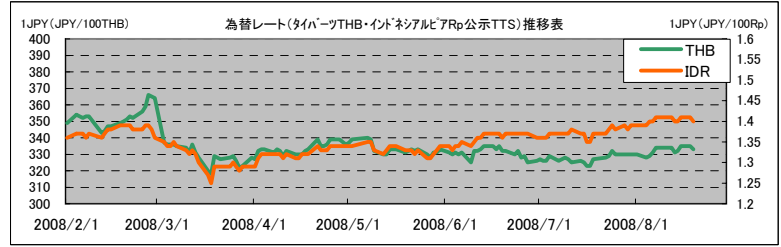
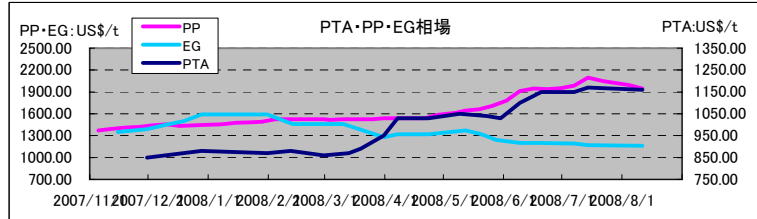


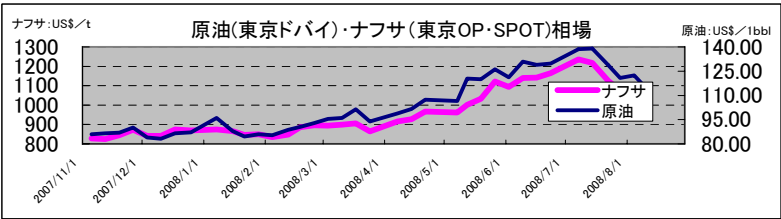
●8月終盤の動き ● @108円/\$を割る水準から8月をスタートのドル/円は米景気下フレシク等一時は@107.46円/\$迄ドル安に進むも、米ドル価値上昇によるコモディティ価格下落への世界的な協調姿勢からコモディティ市場から投資資金の流出を受けた原油価格の下落、ユーロ圏景気減速リスク観測等から行過ぎた米ドル(円も含む)下落の是正から高金利通貨中心に米ドルが値を上げ一時@110.67円/\$迄米ドル高が進む。この水準ではオプション絡みの米ドル売・ショートカバー等もあり@109~110円/\$を中心とした動きとなり、28日現在@108円台後半/\$の推移。●今後の展開 ● 今後を左右する決定的な動きは未だ見当たらないが、基本的に米景気は未だ回復基調にはならない(ドル安) 他国も原油等価格高騰を起因とした景気悪化が続く(ややドル高)インフレ懸念で価格安定迄はどちらにも進んで欲しくない、と言った思惑が各国に見受けられる。(@106.00~110.50円/\$)を予想する。



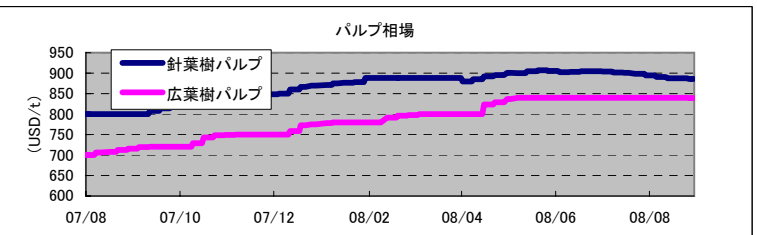
タイバーツ相場: @33.50THB/\$の水準でスタートするもタジク前首相の刑事訴訟⇒英国亡命に代表される『政治不安』等を起因とした投機筋の『パニック離れ』等が影響し一時@34.20THB/\$の水準迄バーツが売られるもインフレ回避の『パニック防衛介入』も@34THB/\$割れが関の山、バーツ軟調基調に変わりなく28日現在@34.10THB/\$付近での推移となっている。9月も基本的に構造の変化は考え難く、『ドル高⇒バーツ買介入』の展開(@33.50~35THB/\$)を予想する。インドネシアルピア相場: @9.100Rp/\$を割る水準からスタートのRpは、高金利通貨の対ドル価格の是正等の影響も受け@9.200Rp/\$を超える水準迄軟化するも『Rp買介入』で通貨の下落を阻止する様子が見える。8月の相場も@9.077~9.208Rp/\$のBOX内展開。9月も変化は考え難く@9.050~9.300Rp/\$を予想する。



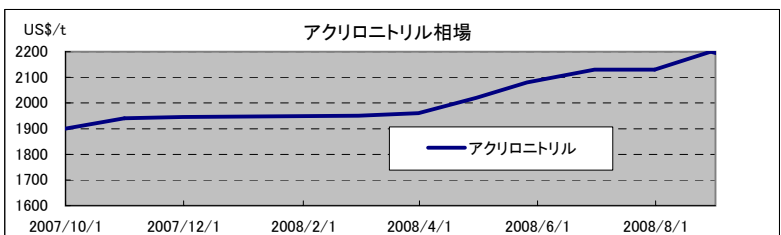
ポーランド・PKNオーレン、PTA60万t設備着工~2010年下稼働
ポーランド最大手の石油精製・化学会社であるPKNオーレンは、ポーランド・ウォツアベックにて三菱化学プロセスによるPTA(高純度テレフタル酸)年産60万トン設備建設に着手しました。同設備の設計・調達・建設は三菱重工業に約500億円で発注済みで、2010年下期の稼働開始を予定しています。PKNオーレンはPTA設備新設に先駆け、ポーランド北西部のブロックで原料パラキシレン年産40万トン設備を2009年12月に完成させる予定です。



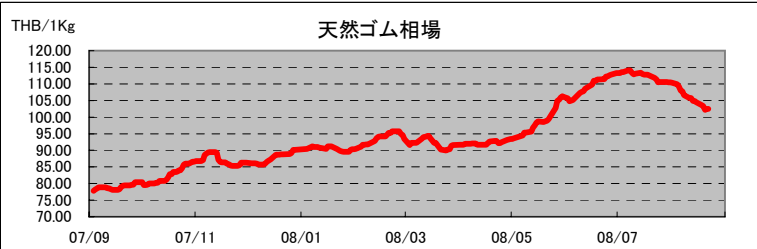
原油相場(WTI、期近物)は、7月11日に1バレル=147.27ドルの過去最高値をつけたものの、その後は下落基調で推移し、8月15日の終値は113.77ドルであった。8月に入って、原油相場の押し上げ材料が無かったわけではない。例えば、5日にアゼルバイジャンからの原油を地中海まで輸送するトルコ領内のパイプライン事故が発生して原油供給に障害が生じ、7日にはロシアとグルジアの軍事衝突が発生してアゼルバイジャンからグルジアを経由するパイプラインからの原油供給にも懸念が生じた。しかし、ドル高がドル建て原油価格の下押し要因になり、世界景気の減速観測から原油需要の減退が強まっている。景気の減速と石油製品価格の上昇により、先進国を中心に石油需要は抑制されるとみられ、年末にかけて100ドル程度まで反落する可能性があるかと予想される声もある。



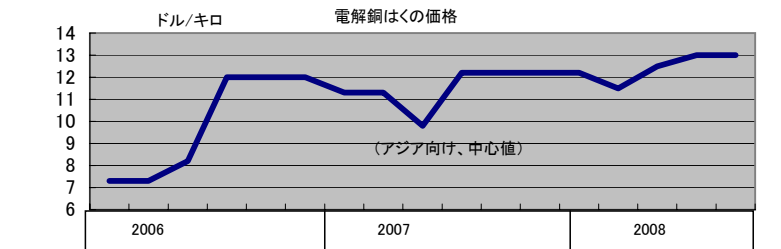
北米のパルプ市場での出荷量は引き続き減っており、2007年7月と比べ、デリバリー量は約9%落ち込んでいます。又、今年に入ってからの7ヶ月で4.5%の落ち込みです。7月1日から打ち出された値上げは一部浸透した様子ですが、普段のこの時期には無い市場在庫であることから先行きは弱そうです。主要なパルプメーカーは9月1日からの値下げを打ち出しておりUSD20/ト下がりUSD870/トの見込みです。欧州港湾でのパルプ在庫は2008年7月に上昇し、0.3%アップ、数量にして4,400トン、合計では1.412百万トンとなり2007年7月と比較し20%増加しています。



アクリル短繊維市況は、中国での需要減退と原料価格の高騰で、三菱レイヨンが6月より、日本エクスラン工業が8月より3~4割の減産に入るなど、かつてない程厳しい環境下に置かれている。中国向け輸出は1~6月、前年同月比で46.8%減、世界全体でも29.6%減と大きく落ち込んでいます。原因として、米国の景気減退による対米向け衣料輸出の落ち込みと、インフレを懸念した中国政府の金融引締め強化で、かなりの打撃を受けている模様。また、ポリエステルとの価格差がより拡大し、アクリルからポリエステルに置き換わる動きが加速しているのも一因である。原料メーカーのダイニテックスは、ANを8月以降に20~30%の減産を打ち出しており、ますますアクリル繊維は厳しい状況になりそうだ。



ゴム相場はシンガポール市場のRSS3号は6月中旬につけた過去最高値と比べ16%安くなった。原油相場の下落が代替品である合成ゴムの値下がり、天然ゴムから需要が移るとの予想から売られ始めた。もともと原油高を材料の一つに4月頃から買い進まれたため、8月初には下落する傾向を維持しており一段と安値を迫る展開となる可能性があったが、目先下げ過ぎ感が広がり、自律的に反発する相場展開が月末には見られた。8月は世界のタイヤ企業などの大口需要化が夏休み長期休暇に入り、不需要時期、9月から日本のタイヤ企業は一斉にタイヤ販売価格の値上げがタイヤの買い控えにつながり消費が落ち込むこともありえる。最大手のブリヂストンは5%値上げを発表。米大手自動車メーカーが赤字決算を発表。GMなどビッグ3の新車販売が落ち込みが、新車装填用のタイヤ需要が落ち込み、天然ゴムの需要が減退して需給の緩和につながる。



電解鋼はくは携帯電話やパソコンなどのデジタル機器のプリント配線基板の製造に不可欠な素材で、電線などから発生する銅スクラップを溶かして電気分解で銅分を抽出します。主にロール状にして中国や東南アジア、日本などのプリント基板メーカーなどに出荷します。世界市場は年7%前後のペースで伸び続けています。銅価格の高騰もあり、電解鋼はくの価格も高止まっている。特に、薄型タイプの鋼はくは従来品からのシフトもあり年2倍のペースで伸びており、価格も高い。

<不織布資材トピックス>

スパンレース不織布大手 事業構造転換に本腰

クラクラフレックス、ダイワポウポリテックのスパンレース大手2社が事業構造転換に本腰を入れている。赤ちゃんのお尻拭き(ベビーウェット)など使い捨て日用雑貨が多い両社だが、主原料であるレーヨン短繊維やポリエステル短繊維の高騰で収益力は低下している。その中で、長期的に見ると、輸入品との競合も含めてディスポ分野で、未来永劫戦える訳ではないとの認識から、製品の拡大、産業資材の新たな用途開拓を目指している。クラクラフレックスの不織布製品比率は、現在でも売上ペースで55%も占めるが、これを70~80%まで引き上げる。ダイワポウポリテックは、グループ企業を含め様々な合成繊維を生産している利点を生かし、新用途、新商品の開発に取り組む。特に、フィルターなどの産業資材にターゲットに据えている。

<繊維ニュース8月27日号より抜粋>

<海外トピックス>

インドネシア、電力不足深刻 需要拡大、供給追いつかず

インドネシア政府は、電力不足対策として、7月下旬、進出企業が集中するジャワ島とバリ島で工場の操業日を1カ月に2日間、平日から土曜と日曜に変更するよう求めた。ピーク消費電力が小さい休日に大口需要家の利用を分散することで、停電を少しでも減らすとする試みだ。電力を独占的に供給しているインドネシア電力公社(PLN)がジャワやバリに供給できる発電能力は約2050万キロワットであるのに対し、ピーク消費電力は約1700万キロワットで、停電を起こさないために4割が必要とされる予備率は半分の2割にとどまっている。とくに今年の電力消費の伸び率は政府計画の1.9%を大きく上回り、5月時点で6.2%を記録するなど需要が拡大。半面、供給は石油や石炭価格が上昇したため、燃料が十分に調達できず火力発電所の運転に支障を来している。ジャワやバリ以外の地域では停電の頻度が週5回に達している。事態を憂慮した日本大使館は、約400社の日本企業の声を代弁する形でインドネシア政府に改善を要請。電力不足問題が日本企業進出の足かせになりかねない情勢だ。

<インテリアトピックス>

良品計画「MUJI 銀座松坂屋」を9/23にオープン

(株)良品計画は、松坂屋銀座店の17年ぶりのリニューアルオープンに合わせて、無印良品の「これから」を発信する都市型旗艦店「MUJI」の3号店となる「MUJI 銀座松坂屋」を9月23日(火)にオープンする。「MUJI 銀座松坂屋」の商品構成は、店舗限定商品14%、「MUJI LABO」、「REAL FURNITURE」などの大型店舗(約10店舗)限定商品16%、通常店舗扱い商品70%を予定。今回初めての試みとして、リラクゼーションをテーマに婦人インナーとスキンケア・アロマ関連の商品を集積した売場を展開する。また「MUJI新宿」では5坪で展開している足周りの商品を集積したコーナーを15坪の「MUJI LEG」コーナーとして本格展開する。フロアはこれまで「ファインリファイン」があったB2Fで、売場面積は436坪(物販のみ)。物販売場面積としては東京23区内で有楽町(965坪)に次ぐ規模となる。7月26日にオープンした「MUJI新宿」は新宿エリアにおける都市型旗艦店であるのに対し、「MUJI 銀座松坂屋」は銀座・新橋エリアにおける都市型旗艦店として位置付けられる。

<金融・ビジネストピックス>

ワーキングプアと蟹工船

小林多喜二の小説「蟹工船」が最近ブームになっています。昭和4年に最初に出版されたもので、プロレタリア文学の代表作とされます。それが最近急に話題になるようになったのは、ワーキングプアと呼ばれる人達がこの小説に自分達の姿をダブらせて、強い共感を覚えることにあるようです。若い人々の間に、パートや派遣労働など、いわゆる非正規雇用と言われる形態の雇用が増加していることが背景にあり、活字離れが著しいと言われるこの世代にも読まれているという。文庫本は、驚くべき売り上げの伸びを見せています。「格差問題」という言葉が聞かれるようになってきましたが、非正規雇用が増えてきたことによって、若年層の中でも賃金の格差が大きくなってきております。将来を担う今の若年層の人々のため、将来の社会の安定という観点からこの問題に何らかの対応が必要となってきたのではないのでしょうか?

●本誌の記事・内容に関しまして、誤り等存在する場合もありますので、あくまでご参考の資料としてご利用頂きますと大変有難く存じます。

●本誌のデータは各種公表数字を基に作成しております。